

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年進補版Ver.2(BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西宮市児童発達支援センター	階数	地上5F
建設地	兵庫県西宮市	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	0人
気候区分	地域区分	年間使用時間	3,200時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年5月19日
敷地面積	2,328 m ²	作成者	菊池憲一
建築面積	1,395 m ²	確認日	2014年5月20日
延床面積	4,719 m ²	確認者	川田啓一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項	
総合 「周辺環境との調和」をキーワードとし、外観計画や外構・植栽計画を行った。 自然エネルギーの活用や、光熱水費の削減、CO ₂ 排出量の削減、更新・修繕のしやすさなど 将来を見据えた省エネルギー計画を積極的に行った。	その他 照明計画と内装計画を一体として行うなど、具体的な取り組みを積極的に行う。 何人かの設計者でヒアリングチームを構成し、各部門の関係者及び利用者に対し、数回にわたって意見交換をし
Q1 室内環境 外壁や中庭の開閉部から積極的に自然の光を取り入れる。 床暖房の採用やF 建材の採用、十分な換気量の実現などを行う。	Q2 サービス性能 心のしなやかさを育むため、施設利用者にとって心地よい空間となるよう、内装計画のコンセプトを明確にし、視線の高さや使い勝手等に配慮したデザインとした。 また、耐震性は重要度係数I = 1.25とし、非常用電源を設
LR1 エネルギー 太陽光発電やハイブリッド照明の採用、開口部は全て複層ガラスとする(一部に低放射複層ガラスを用いる)など、省エネルギー計画を積極的に行う。	LR2 資源・マテリアル 雨水再利用施設の設置や節水型機器、グリーン調達品目などのリサイクル材を積極的に採用する。
	Q3 室外環境(敷地内) 道路に面した園庭やキャノピーを設置したアプローチなど、建物内外をつなげる豊かな中間領域をつくる。 園庭や屋上プールサイドには広範囲に遮光ネットを設置できるようにし、夏場の紫外線対策として快適な環境を
	LR3 敷地外環境 屋上緑化や園庭の緑化、また駐車場・駐輪場の十分な確保、多種別が可能なごみ置場の設置などを計画する。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 'ライフサイクルCO₂'とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される